CLI ガイド

Amazon DCV セッションマネージャー

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon DCV セッションマネージャー: CLI ガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスはAmazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

セッションマネージャー CLI とは 1
セッションマネージャー CLI のインストール 2
Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストールに関する前提条件 2
Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストール 2
セッションマネージャー CLI の設定 4
設定の基本 4
CLI 設定の構成 5
コマンドラインオプション 5
環境変数 7
設定ファイル 8
CLI での作業 10
コマンドに関するヘルプの利用 10
パラメータタイプ 12
コマンド構造の使用 13
構文リファレンス 13
リターンコードの使用 14
CLI コマンドリファレンス 16
close-servers 16
概要 17
オプション 17
例 17
create-session 17
概要 17
オプション 17
例 17
delete-session 20
概要 17
オプション 17
例 17
describe-servers 22
概要 17
オプション 17
例 17
describe-sessions 23

概要 17
オプション 17
例 17
get-session-connection-data 24
概要 17
オプション 17
例 17
get-session-screenshots 25
概要 17
オプション 17
例 17
open-servers 26
概要 17
オプション 17
例 17
update-session-permissions 27
概要 17
オプション 17
例 17
リリースノートとドキュメント履歴 29
リリースノート 29
2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日 30
2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日 30
2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日 30
2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日 31
2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日 31
2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日 31
2023.1— 2023 年 11 月 9 日 32
2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日 32
2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日 32
2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日 32
2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日 33
2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日 33
2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日 33
2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日 34
2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日 34

2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日 34
2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日 35
2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日 35
2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日 36
..... 36
ドキュメント履歴 36
..... xl

Amazon DCV セッションマネージャーのコマンドラインインターフェイスとは

> **Note**
>
> Amazon DCV は以前は NICE DCV と呼ばれていました。

Amazon DCV セッションマネージャーとは、インストール可能なソフトウェアパッケージ (エージェントとブローカー) とアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) のセットです。デベロッパーや独立系ソフトウェアベンダー (ISV) がこれを使えば、Amazon DCV サーバーフリートにおける Amazon DCV セッションのライフサイクルの作成および管理をプログラムで実行できるフロントエンドアプリケーションを簡単に構築できます。

Amazon DCV セッションマネージャーのコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用すると、コマンドラインシェルでコマンドを使用して DCV セッションマネージャーブローカーを操作することができます。

- Linux シェル — Linux または macOS でコマンドを実行するには `bash`、`zsh`、`tcsh` などの一般的なシェルプログラムを使用します。
- Windows コマンドライン - Windows では、Windows コマンドプロンプトまたは PowerShell でコマンドを実行します。

Amazon DCV セッションマネージャー CLI を使用して、Amazon DCV セッションのライフサイクルを管理することができます。これらは Amazon DCV セッションマネージャーによって管理されます。

Amazon DCV セッションマネージャーのコマンドラインインターフェイスのインストール

Amazon DCV セッションマネージャーコマンドラインインターフェイス (CLI) は、Amazon DCV プラットフォームでリモートデスクトップセッションを管理するための強力なツールです。開始するには、ローカルシステムに CLI をインストールする必要があります。このセクションでは、セッションマネージャーの CLI を Linux、macOS、Windows にインストールする方法について説明します。

トピック

- Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストールに関する前提条件
- Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストール

Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストールに関する前提条件

このセクションでは、Linux、macOS、および Windows に Amazon DCV セッションマネージャー CLI をインストールするための前提条件について説明します。

Linux and macOS

- Python、バージョン 3.6 以降。
- ダウンロードした圧縮ファイルの抽出または解凍機能。オペレーティングシステムに組み込み `unzip` コマンドがない場合は、同等のコマンドを使用します。

Windows

- Python バージョン 3.6 以降。
- スタートアップスクリプトを使用して Amazon DCV セッションマネージャー CLI を実行するには、Python を PATH 環境変数に適切に設定する必要があります。

Amazon DCV セッションマネージャー CLI のインストール

このセクションでは、Amazon DCV セッションマネージャーの CLI を Linux、macOS、Windows にインストールする方法について説明します。

Linux and macOS

Amazon DCV セッションマネージャー CLI を Linux および macOS にインストールする方法

1. Amazon DCV ウェブサイトから、zip 形式で圧縮されたパッケージをダウンロードします。
2. ダウンロードしたパッケージを解凍します。Linux ディストリビューションに組み込み unzip コマンドがない場合は、同等のコマンドを使用して解凍します。次のコマンド例では、パッケージを解凍し、現在のディレクトリの下に `nice-dcv-session-manager-cli-1.0.0-37` という名前のディレクトリを作成します。

```
$  unzip nice-dcv-session-manager-cli-1.0.0-37.zip
```

3. zip ファイルの内容を検証するには、前のステップで抽出したフォルダ内で次のコマンドを実行します。

```
./dcvsm --version
```

Windows Amazon DCV server

Amazon DCV セッションマネージャー CLI を Windows にインストールする方法

1. Amazon DCV ウェブサイトから、zip 形式で圧縮されたパッケージをダウンロードします。
2. ダウンロードしたパッケージを解凍します。
3. zip ファイルのコンテンツを検証するには、次のコマンドを実行します。

```
C:\>  dcvsm --version
```

Amazon DCV セッションマネージャーのコマンドラインインターフェイスの設定

このセクションでは、ブローカーで使用するセッションマネージャーのコマンドラインインターフェイス (CLI) を設定する手順について説明します。設定を構成したら、コマンドラインからセッション管理タスクを実行し、Amazon DCV サーバーでリモートデスクトップワークフローを自動化できます。

CLI を使用するには、セッションマネージャークライアントをブローカーに登録し、クライアント認証情報を生成する必要があります。ブローカーCLI リファレンスで説明されているプロセスに従ってください。

トピック

- 設定の基本
- CLI 設定の構成

設定の基本

Amazon DCV セッションマネージャー CLI には、ユーザーが指定できる一連の設定パラメータがあります。以下のパラメータは必須です。

- ブローカー URL
- クライアント ID
- クライアントパスワード

設定パラメータは次の 3 つの方法で定義できます。

- コマンドライン
- 環境変数
- 設定ファイル

CLI 設定の構成

Amazon DCV セッションマネージャーでは、複数の場所にある認証情報と構成設定を使用します。これらには、ユーザー環境変数、ローカル Amazon DCV セッションマネージャー設定ファイル、またはコマンドラインでパラメータとして明示的に宣言されたものが含まれます。特定の場所が他の場所よりも優先されます。

Amazon DCV セッションマネージャー CLI の認証情報と設定は次の順序で優先されます。

- コマンドラインオプション - 他の場所の設定を上書きします。
- 環境変数 - システムの環境変数に値を格納できます。
- CLI 設定ファイル — 設定ファイルでオプションを指定します。

トピック

- コマンドラインオプション
- 環境変数
- 設定ファイル

コマンドラインオプション

Amazon DCV セッションマネージャーで、次のコマンドラインオプションを使用して、デフォルトの構成設定、対応するプロファイル設定、または 1 つのコマンドの環境変数設定を上書きできます。コマンドラインオプションを使用して認証情報を直接指定することはできません。引数を使用する各オプションには、オプション名から引数を分離するスペースまたは等号 (=) が必要です。

`--conf`

設定ファイルのパスを指定します。定義されていない場合、CLI によりデフォルトの設定ファイルが使用されます。設定ファイルの詳細については、「設定ファイル」を参照してください。

タイプ: 文字列

`--broker-url`

リクエストを送信する URL を指定します。

タイプ: 文字列

--debug

デバッグログ記録を有効にするブールスイッチ。デフォルトでは、DCV SM CLI から、コマンド出力にコマンドの結果に関する成功または失敗に関するクリーンアップ情報が提供されます。--debug オプションでは、完全なログが提供されます。これには、コマンドが予期しない結果を提供する原因をトラブルシューティングするときに使用できるコマンドのオペレーションに関する追加の stderr 診断情報が含まれています。

型: ブール値

タイプ: 文字列

--no-verify-ssl

このオプションを使用すると SSL 証明書の検証を無効にすることはできますが、セキュリティ上の理由から推奨されません。DCV SM CLI のデフォルト設定ではブローカーサービスとの通信時に SSL が使用されます。

型: ブール値

--ca-bundle

SSL/TLS 接続を確立するときに使用する CA のカスタム証明書バンドル (拡張子 `.pem` のファイル) へのパスを指定します。

--auth-server-url

OAuth 2.0 アクセストークンのリクエストに使用される認証サーバーのホスト名を指定します。指定されていない場合はブローカー URL が使用されます。

タイプ: 文字列

--version

実行中の DCV SM CLI プログラムの現在のバージョンを表示します。

タイプ: 文字列

--help

DCV SM CLI のオプションとコマンドのリストを表示します。

タイプ: 文字列

環境変数

環境変数には、いくつかの設定オプションと認証情報を指定するための別の方法があります。

次の例では、デフォルトユーザーの環境変数を設定する方法を示します。

macOS または Linux で環境変数を設定する

次のコマンドを実行して Linux または macOS で環境変数を設定します。

```
$  export DCV_SM_AUTH_SERVER_URL=https://example.com
```

```
$  export DCV_SM_CLIENT_ID=ExampleClientID
```

環境変数を設定すると、シェルセッションの終了時まで、または変数に別の値を設定するまで、使用する値が変更されます。変数をシェルのスタートアップスクリプトで設定することで、その後のセッションでその変数を永続的に設定することができます。

Windows で環境変数を設定する

次のコマンドを実行して Windows コマンドプロンプトで環境変数を設定します。

```
$  setx DCV_SM_AUTH_SERVER_URL https://example.com
```

```
$  setx DCV_SM_CLIENT_ID ExampleClientID
```

`set` を使用して環境変数を設定すると、現在のコマンドプロンプトセッションの終了時まで使用される値が変更されます。または、変数に別の値を設定するまで使用される値が変更されます。`setx` を使用して環境変数を設定すると、現在のコマンドプロンプトセッションおよびすべてのコマンドプロンプトセッションの両方で使用される値が変更されます。これらのセッションは、コマンドの実行後に作成します。これは、コマンド実行時にすでに実行されている他のコマンドシェルには影響を及ぼしません。

PowerShell を使用して環境変数を設定する

PowerShell を使用して環境変数を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
$  $Env:DCV_SM_AUTH_SERVER_URL="https://example.com"
```

```
$  $Env:DCV_SM_CLIENT_ID="ExampleClientID"
```

前の例に示すように PowerShell プロンプトで環境変数を設定した場合は、現在のセッションの期間だけ値が保存されます。PowerShell およびコマンドプロンプトセッション間で環境変数を永続的に設定するには、[Control Panel] (コントロールパネル) の [System] (システム) アプリケーションを使用して変数を保存します。または、PowerShell プロファイルに変数を追加すると、以降のすべての PowerShell セッションにその変数が設定されます。環境変数の保存やセッション間での永続設定については、PowerShell ドキュメントを参照してください。

Amazon DCV セッションマネージャーでサポートされている環境変数

Amazon DCV セッションマネージャーでは次の環境変数がサポートされています。

- `DCV_SM_AUTH_SERVER_URL`

  OAuth 2.0 アクセストークンのリクエストに使用される認証サーバーのホスト名を指定します。この環境変数を指定した場合、設定ファイルの値がオーバーライドされます。
- `DCV_SM_CLIENT_ID`

  OAuth 2.0 アクセストークンの取得のためにセッションマネージャークライアントにより使用される一意のクライアント ID。
- `DCV_SM_CLIENT_PASSWORD`

  OAuth 2.0 アクセストークンの取得のためにセッションマネージャークライアントにより使用されるパスワード。
- `DCV_SM_OAUTH2_TOKEN`

  API リクエストの作成に使用されるアクセストークン。

設定ファイル

設定ファイルは、いくつかの設定オプションと認証情報を指定するための 3 つ目の方法です。デフォルトでは、`/conf/dcvsmcli.conf` の zip ファイルに入っています。

ユーザーはコマンドラインで設定ファイルのパスを指定できます。ユーザーが明示的に設定ファイルを指定しない場合、オペレーティングシステムに応じて、デフォルト設定により特定フォルダから読み取られます。

- Unix ベースのシステム: `$XDG_CONFIG_HOME/dcvsmcli.conf`

- Windows システム: `%UserProfile%\dcvsmcli.conf`

設定ファイルが見つからない場合、CLI で、zip ファイルとともに提供されたパス `/conf/dcvsmcli.conf` からファイルが読み取られます。設定ファイルは次のような構造になっています。

```
[output]
# The formatting style for command output.
output-format = json

# Turn on debug logging
debug = true

[security]
# Disable SSL certificates verification.
no-verify-ssl = true

# CA certificate bundle to use when verifying SSL certificates.
ca-bundle = ca-bundle.pem

[authentication]
# hostname of the authentication server used to request the token
auth-server-url = https://broker-host:broker-port/oauth2/token?
grant_type=client_credentials

# The client ID
client-id = username

# The client password
client-password = password

[broker]
# hostname or IP of the broker
url = https://broker-host:broker-port
```

Amazon DCV セッションマネージャー CLI での作業

CLI を使用すると、コマンドラインで、またはスクリプト内で Amazon DCV セッションをプログラムで作成、一覧表示、制御できます。セッション管理タスクを自動化し、Amazon DCV をカスタムワークフローに統合し、複数のホスト間でセッションを大規模に管理できます。

このセクションでは、DCV の SM コマンドラインインターフェイス (SM CLI) の多数の一般的な機能と使用可能なオプションを紹介します。このセクションでは、次のいくつかのトピックについて説明します。

トピック

- コマンドに関するヘルプの利用
- コマンド構造の使用
- リターンコードの使用

コマンドに関するヘルプの利用

Amazon DCV セッションマネージャー CLI を使用する際は、どのコマンドでもサポートを受けることができます。そのためには、コマンド名の末尾に `--help` と入力するだけです。

Example

例えば、次のコマンドは、一般的な DCV SM CLI オプションと使用可能なトップレベルのコマンドのヘルプを表示します。

```
dcvsm --help
```

次の例は、CLI コマンドの出力を示しています。

```
Usage: dcvsm [OPTIONS] COMMAND [ARGS]...

  Amazon DCV Session Manager CLI

Options:
  --conf TEXT           Name of the configuration file to read the
                        configuration parameters
  --broker-url TEXT     The URL of the broker
```

```
  --debug               Specify to enable the debug mode. By default is
                        disabled
  --no-verify-ssl       Specify to disable the verification of SSL
                        certification. By default is enabled
  --output-format TEXT  Specify the format of the output
  --ca-bundle TEXT      Specifies the path to a custom certificate bundle
                        (a file with a .pem extension) of CA to use when
                        establishing SSL/TLS connections
  --auth-server TEXT    URL of the authentication server used to request
                        the token
  --version             Show the version and exit.
  -h, --help            Show this message and exit.

Commands:
  close-servers                 Closes one or more Amazon DCV server
  create-session               Creates a new Amazon DCV session
  delete-session               Deletes the specified Amazon DCV session
  describe-servers             Describes one or more Amazon DCV servers
  describe-sessions            Describes one or more Amazon DCV sessions
  get-session-connection-data  Gets connection data for a specific Amazon DCV session.
  get-session-screenshots      Gets screenshots of one or more Amazon DCV sessions.
  open-servers                 Opens one or more Amazon DCV servers
  update-session-permissions   Updates the user permissions for a specific Amazon DCV
 session.
```

コンテキストに関するヘルプ情報については、すべてのコマンドで --help が受け入れられます。例えば、次のコマンドは、create-session コマンドのヘルプを表示します。

```
dcvsm create-session --help
```

次の例は `create-session --help` コマンドの出力です。

```
Usage: dcvsm create-session [OPTIONS]

  Create sessions API

Options:
  --name TEXT                     The name for the session  [required]
  --owner TEXT                    The name of the session owner  [required]
  --type TEXT                     Session type: CONSOLE|VIRTUAL  [required]
  --init-file-path TEXT           Supported with virtual sessions on Linux
                                  Amazon DCV servers
  --autorun-file TEXT             The path to a file on the host server that
```

```
                                  is to be run inside the session
  --autorun-file-arguments TEXT   Command-line arguments passed to AutorunFile
                                  upon its execution inside the session
  --max-concurrent-clients INTEGER RANGE
                                  The maximum number of concurrent Amazon DCV
                                  clients, if provided must be between 1 and
                                  100 [1<=x<=100]
  --dcv-gl-enabled                Indicates whether the virtual session is
                                  configured to use hardware-based OpenGL.
                                  Specify to enable it, by default is disabled
  --permissions-file TEXT         The Base64-encoded contents of the
                                  permissions file
  --requirements TEXT             The requirements that the server must
                                  satisfy in order to place the session
  --storage-root TEXT             Specifies the path to the folder used for
                                  session storage
  -h, --help                          Show this message and exit.
```

Amazon DCV SM CLI コマンドリファレンスには、Amazon DCV SM CLI コマンドのヘルプコンテンツもすべて含まれています。Amazon DCV SM CLI のコマンドはすべて、ブローカーの API に対して行われるリクエストに対応します。各 API の「Amazon DCV セッションマネージャーデベロッパーガイド」セクションに API リファレンスがあります。

パラメータタイプ

特定のコマンドのオプションや引数の形式処理に問題がある場合は、各コマンドのヘルプに使用可能な関数とオプションが説明されています。

String

文字列パラメータには、 文字、数字、、空白を含めることができます。空白文字を含む文字列は引用符で囲まれている必要があります。文字列は、一重引用符や二重引用符で囲むことができ、引用符で囲まないことも可能です。記号は、予期しない結果が生じる可能性があるため使用しないことをお勧めします。

リスト

カンマで区切られ、引用符で囲まれた 1 つ以上の文字列。以下の例は `--session-ids` のリストです。

```
dcvsm describe-sessions --session-ids "session123,session456"
```

ブール値

オプションをオンまたはオフにするバイナリフラグです。例えば、—debug describe-sessions にはブール型 —debug オプションがあり、これを指定すると、デバッグを有効にする API が呼び出されます。

```
dcvsm --debug describe-sessions
```

ブール型オプションを明示的に指定しない場合、デフォルトで FALSE に設定されます。

整数

符号なしの整数。

```
dcvsm describe-sessions --max-results 2
```

コマンド構造の使用

このトピックでは、Amazon DCV セッションマネージャー CLI コマンドの構造について説明します。 CLI は、コマンドラインでマルチパート構造を使用します。次の順序で指定する必要があります。

1. `./dcvsm` – プログラムのベースコール。
2. `[options]` – すべてのコマンドで使用される一般的なオプションに対応します。これらは任意の順序で指定できます。
3. `commands` – 実行する操作を指定します。
4. `args` – コマンドで必要となる引数に対応します。引数のリストについては、「Amazon DCV セッションマネージャー CLI リファレンス」を参照してください。

構文リファレンス

```
dcvsm [options] commands args
```

引数にはさまざまなタイプの入力値を取り入れることができます。これらには、数値、文字列、ブール値が含まれます。サポートされる内容は、指定したコマンドによって異なります。

リターンコードの使用

リターンコードは通常、Amazon DCV セッションマネージャー CLI コマンドを実行してステータスを記述した後に送信される非表示コードですが、必ずしもそうとは限りません。

これらのリターンコードを表示するには、echo コマンドを使用します。これにより、最後のセッションマネージャー CLI コマンドから送信されたコードが表示されます。これらのコードを使用して、コマンドが成功したかどうか、およびコマンドにエラーがある理由を特定できます。

リターンコードに加えて、--debug を使用してコマンドを実行すると、エラーに関する詳細情報を表示できます。これにより、コマンドを処理するためにセッションマネージャー CLI が使用するステップおよび各ステップの結果についての詳細なレポートが作成されます。

DCV SM CLI コマンドのリターンコードを判断するには、その CLI コマンドの実行直後に次のいずれかのコマンドを実行します。

- Linux および macOS

```
$  echo $?
0
```

- Windows PowerShell

```
$  echo $lastexitcode
0
```

- Windows コマンドプロンプト

```
$  echo %errorlevel%
0
```

CLI コマンドの実行終了時に、次のリターンコードが表示されます。

- 0 コマンドは成功しました。CLI またはリクエストの送信先であるサービスのいずれからもエラーが送出されませんでした。

- 1 CLI に対して解析された設定ファイルが見つからないか、または破損している可能性があります。

- 2 コマンドラインに入力されたこのコマンドの解析が失敗しました。解析が失敗する原因としては、必要なサブコマンドまたは引数の欠如や、不明なコマンドまたは引数の使用などが考えられます (ただしこれらに限定されません)。このリターンコードの意味は、すべての CLI コマンドに適用されるため注意が必要です。

- 130 プロセスで SIGINT (Ctrl-C) が受信されました。

- 252 コマンド構文が無効である、不明なパラメータが指定されている、またはパラメータの値が正しくないため、コマンドを実行できませんでした。

- 253 システム環境または設定が無効です。指定されたコマンドは構文的に有効である可能性がありますが、設定または認証情報がないため、コマンドを実行できませんでした。

- 254 コマンドは正常に解析され、指定されたサービスに対してリクエストが行われましたが、サービスからエラーが返されました。これは、通常、API の誤った使用またはその他のサービス固有の問題を示します。

- 255 一般的なキャッチオールエラー。コマンドは正しく解析された可能性がありますが、コマンドの実行時に不特定のランタイムエラーが発生しました。これは一般的なエラーコードであるため、エラーは 255 からより具体的なリターンコードに変わることがあります。特定のエラーケースを見つけ出すために 255 のリターンコードに頼るべきではありません。

Amazon DCV セッションマネージャー CLI リファレンス

CLI を使用すると、新しいセッションの起動、アクティブなセッションの一覧表示、セッションの接続情報の取得、セッションの終了など、さまざまなセッション管理タスクを実行できます。このセクションでは、使用可能な CLI コマンドとその使用状況について説明します。

Amazon DCV サーバーを操作するには、次のコマンドを使用します。

- open-servers
- describe-servers
- close-servers

Amazon DCV セッションを操作するには、次のコマンドを使用します。

- create-session
- describe-sessions
- get-session-connection-data
- get-session-screenshots
- update-session-permissions
- delete-session

close-servers

1 つまたは複数の Amazon DCV サーバーを閉じます。Amazon DCV サーバーを閉じると、Amazon DCV セッション配置で使用できなくなります。閉じたサーバーでは Amazon DCV セッションを作成することはできません。サーバーを閉じると、サーバーでセッションが実行されなくなり、ユーザーがサーバーで新しいセッションを作成できなくなります。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
close-servers
--server-ids <value>
[--force]
```

オプション

--server-ids

閉じる Amazon DCV サーバーの ID のカンマ区切りリスト。

タイプ: 文字列

必須: はい

--force

サーバーを強制的に閉じる操作。デフォルトではこれは無効になっています。

型: ブール値

必須: いいえ

例

```
dcvsm close-servers --server-ids "server123,server456"
```

create-session

指定された詳細で新しい Amazon DCV セッションを作成します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
create-session
--name <value>
--owner <value>
--type <value>
[--init-file-path <value>]
[--autorun-file <value>]
[--autorun-file-arguments <value>]
[--max-concurrents-clients <value>]
[--dcv-gl-enabled]
[--permissions-file <value>]
[--requirements <value>]
[--storage-root <value>]
[--enqueue-request <value>]
```

オプション

--name

セッションの名前。

タイプ: 文字列

必須: はい

--owner

セッション所有者の名前。

タイプ: 文字列

必須: はい

--type

セッションのタイプ。これは `Console` または `Virtual` のいずれかになります。

型: 選択

必須: はい

--init-file-path

セッションを作成時に初期化するために実行する Amazon DCV サーバー上のカスタムスクリプトへのパス。このファイルパスは、`agent.init-folder` エージェント設定パラメータに対して指定された `init` ディレクトリに関連します。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--autorun-file

セッション内で実行されるホストサーバー上のファイルへのパス。このファイルパスは、`agent.autorun-folder` エージェント設定パラメータに対して指定された `autorun` ディレクトリに関連します。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--autorun-file-arguments

セッション内で実行されるときに `AutorunFile` に渡されるコマンドライン引数。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--max_concurrent-clients

同時 Amazon DCV クライアントの最大数。指定する場合は必ず 1 ~ 100 の範囲の値で指定してください。

タイプ: 整数

必須: いいえ

--dcv-gl-enabled

ハードウェアベースの OpenGL を使用するように仮想セッションを設定します。デフォルトでは無効になっています。

型: ブール値

必須: いいえ

--permissions-file

許可ファイルへのパス。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--requirements

サーバーで必ず満たされるべきセッション配置要件。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--storage-root

セッションストレージに使用されるフォルダへのパス。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--enqueue-request

すぐに受理できない場合に、リクエストをキューに入れるかどうかを示します。リクエストはデフォルトではキューに入れられません。

型: ブール値

必須: いいえ

例

```
dcvsm create-session --name session123 --owner sessionOwner
--type Console --requirements "server:Host.Os.Family = 'windows'"
```

delete-session

指定された Amazon DCV セッションを削除し、ブローカーのキャッシュから削除します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
delete-session
--session-id <value>
--owner <value>
[--force]
```

オプション

--session-id

削除するセッションの ID。

タイプ: 文字列

必須: はい

--owner

削除するセッションの所有者。

タイプ: 文字列

必須: はい

--force

ブローカーのキャッシュからセッションが確実に削除されるようにするオペレーション。デフォルトではこれは無効になっています。

型: ブール値

必須: いいえ

例

```
dcvsm delete-session --session-id session123 --owner sessionOwner
```

```
--force
```

describe-servers

指定された Amazon DCV サーバーを記述します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
describe-servers
[--server-ids <value>]
[--next-token <value>]
[--max-results <value>]
```

オプション

--server-ids

記述する Amazon DCV サーバーの ID のカンマ区切りリスト。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--next-token

次の結果ページの取得に使用するトークン。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--max-results

ページ割り出力でリクエストにより返される結果の最大数。指定する場合は必ず 1 ~ 1000 の範囲の値で指定してください。

タイプ: 整数

必須: いいえ

例

```
dcvsm describe-servers --server-ids "server123,server456"
```

describe-sessions

1 つ以上の Amazon DCV サーバーを記述します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
describe-sessions
[--session-ids <value>]
[--next-token <value>]
[--owner <value>]
[--max-results <value>]
```

オプション

`--session-ids`

記述する Amazon DCV サーバーの ID のカンマ区切りリスト。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

`--next-token`

次の結果ページを取得するトークン。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--owner

記述するセッションの所有者。

タイプ: 文字列

必須: いいえ

--max-results

表示される結果の数。指定する場合は必ず 1 ~ 1000 の範囲の値で指定してください。

タイプ: 整数

必須: いいえ

例

```
dcvsm describe-sessions --session-ids "session123,session456"
```

get-session-connection-data

特定のユーザーによる特定の Amazon DCV セッションへの接続に関する接続情報を取得します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
get-session-connection-data
--session-id <value>
--user <value>
```

オプション

--session-id

接続データの提供元となる Amazon DCV セッションの ID。

タイプ: 文字列

必須: はい

--user

接続情報を見るユーザーの名前。

型: ブール値

必須: はい

例

```
./dcvsm get-session-connection-data --session-id session123
--user dcvuser
```

get-session-screenshots

1 つ以上の Amazon DCV セッションのスクリーンショットを取得します。オプションのパラメータを使用すると、スクリーンショットの最大幅と高さを指定できます。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
get-session-screenshots
--session-ids <value>
--max-width <value>
--max-height <value>
```

オプション

`--session-ids`

スクリーンショットの提供元となる Amazon DCV サーバーの ID のカンマ区切りリスト。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

```
./dcvsm get-session-screenshots --session-ids session123 --max-width 1234 --max-height
 1234
```

open-servers

1 つまたは複数の Amazon DCV サーバーを開きます。Amazon DCV サーバーでセッションを作成する前に、サーバーの状態を [開く] に変更する必要があります。Amazon DCV サーバーが [開く] になったら、サーバーで Amazon DCV セッションを作成できます。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
open-servers
--server-ids <value>
```

オプション

`--server-ids`

開く Amazon DCV サーバーの ID のカンマ区切りリスト。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

```
./dcvsm open-servers --server-ids "server123,server456"
```

update-session-permissions

特定の Amazon DCV セッションのユーザーアクセス許可を更新します。

トピック

- 概要
- オプション
- 例

概要

```
update-session-permissions
--session-id <value>
--owner <value>
--permission-file <value>
```

オプション

--session-id

アクセス許可が設定されるセッションの ID を指定します。

タイプ: 文字列

必須: はい

--owner

アクセス許可が変更されるセッションの所有者。

タイプ: 文字列

必須: はい

--permission-file

許可ファイルへのパス。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

```
./dcvsm update-session-permissions --session-id session123
--owner Owner --permission-file path_to_file
```

Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノートとドキュメント履歴

このページでは、Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノートとドキュメント履歴を掲載します。

トピック

- Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノート
- ドキュメント履歴

Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノート

このセクションでは、Amazon DCV セッションマネージャーの大幅な更新、機能リリース、バグ修正の概要について説明します。更新はすべてリリース日別に整理されています。お客様からお寄せいただいたフィードバックに対応するために、ドキュメントを頻繁に更新しています。

トピック

- 2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日
- 2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日
- 2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日
- 2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日
- 2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日
- 2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日
- 2023.1— 2023 年 11 月 9 日
- 2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日
- 2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日
- 2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日
- 2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日
- 2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日
- 2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日
- 2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日
- 2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日

- 2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日
- 2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日
- 2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日
- 2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日
- 2020.2-9508 — 2020 年 11 月 11 日

2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 531 • エージェント: 852 • CLI: 154	• 有効期限が切れる前に証明書を更新する機能を追加しました。 • NICE DCV を Amazon DCV にブランド変更しました。 • バグが修正されました。

2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 504 • エージェント: 817 • CLI: 154	• AL2023 のサポートが追加されました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 493 • エージェント: 801 • CLI: 152	• スクリーンショットの最大の高さと幅を指定するパラメータを`GetSessionScreenshot` リクエストに追加しました。 • 到達できない Amazon DCV サーバーのセッションがシステムから削除されるまでの秒数を指定するパラメータをブローカー設定ファイルに追加しました。

ビルド番号	変更とバグ修正
	• ブローカー設定ファイルの `seconds-before-deleting-unreachable-dcv-server` パラメータが受け入れられない問題を修正しました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 457 • エージェント: 748 • CLI: 140	• NICE DCV を Amazon DCV にブランド変更しました。 • Ubuntu 24.04 に追加されたサポート。

2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 426 • エージェント: 748 • CLI: 140	• パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 417 • エージェント: 748 • CLI: 140	• GB ではなく TB としてメモリが誤って表示されたバグを修正しました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2023.1— 2023 年 11 月 9 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 410 • エージェント: 732 • CLI: 140	• バグを修正してパフォーマンスを改善しました。

2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 392 • エージェント: 675 • CLI: 132	• ARM プラットフォームで Red Hat Enterprise Linux 9、Rocky Linux 9、CentOS Stream 9 のサポートが追加されました。

2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 392 • エージェント: 642 • CLI: 132	• Red Hat Enterprise Linux 9、Rocky Linux 9、CentOS Stream 9 のサポートが追加されました。

2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 382 • エージェント: 612 • CLI: 123	• `DescribeSessions` の応答に `Substate` フィールドが追加されました。

ビルド番号	変更とバグ修正
	• 使用中の URL に応じて CLI がブローカーに接続できない問題を修正しました。

2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 355 • エージェント: 592 • CLI: 114	• Graviton AWS インスタンスでブローカーを実行するためのサポートが追加されました。 • Ubuntu 22.04 のエージェントとブローカーのサポートが追加されました。

2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 341 • エージェント: 520 • CLI: 112	• エージェントにログローテーション機能が追加されました。 • ブローカーに Java ホームを設定する設定パラメータを追加しました。 • ブローカーのキャッシュからディスクへのデータフラッシュが改善されました。 • CLI での URL 検証を修正しました。

2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日

ビルド番号	新機能
• ブローカー: 307 • エージェント: 453 • CLI: 92	• Amazon DCV Connection Gateway との統合のサポートが追加されました。 • Ubuntu 18.04 と Ubuntu 20.04 のブローカーのサポートが追加されました。

2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 288 • エージェント: 413 • CLI: 54	• Windows ドメインを含むログイン名の検証に関する問題を修正しました。

2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 254 • エージェント: 413 • CLI: 54	• コマンドラインインターフェイスで Windows セッションを起動できない問題を修正しました。

2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日

ビルド番号	新機能	変更とバグ修正
• ブローカー: 254 • エージェント: 413 • CLI: 37	• Amazon DCV セッションマネージャーで、コマンドラインインターフェイス (CLI) がサポートされるようになりました。API を呼び出すのではなく、CLI で、Amazon DCV セッションの作成と管理を実行できます。 • Amazon DCV セッションマネージャーにブローカーデータの永続性を導入しました。可用性を高めるために、ブローカーでは、サーバーの状態情報を外部データストアに残して	• 外部認可サーバーを登録するときに、認可サーバーで JSON 形式のウェブトークンの署名に使用されるアルゴリズムを指定できるようになりました。この変更により、Azure AD を外部認可サーバーとして使用できます。

ビルド番号	新機能	変更とバグ修正
	おいて、スタートアップ時にデータを復元することができます。	

2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日

ビルド番号	新機能	変更とバグ修正
• ブローカー: 214 • エージェント: 365	• Amazon DCV セッションマネージャーにおいて、Linux で自動実行ファイルに渡される入力パラメータのサポートを追加しました。 • サーバープロパティを CreateSessions API に要件として渡すことができるようになりました。	• Windows での自動実行ファイルに関する問題を修正しました。

2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日

ビルド番号	変更とバグ修正

• ブローカー: 183
• エージェント: 318
	• Amazon DCV セッションマネージャーに次の新しい API を導入しました。
	  • OpenServers
	  • CloseServers
	  • DescribeServers
	  • GetSessionScreenshots
	• 次の新しい設定パラメータも導入しました。
	  • ブローカーパラメータ: `session-screenshot-max-width` 、`session-screenshot-max-height` 、`session-screenshot-format` 、`create-sessions-queue-max-size` 、`create-sessions-queue-max-time-seconds`

ビルド番号	変更とバグ修正
	• エージェントパラメータ: `agent.autorun_folder` 、`max_virtual_sessions` 、`max_concurrent_sessions_per_user` エージェントパラメータ: `agent.autorun_folder` 、`max_virtual_sessions` 、`max_concurrent_sessions_per_user` エージェントパラメータ: `agent.autorun_folder` 、`max_virtual_sessions` 、`max_concurrent_sessions_per_user`

2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 114 • エージェント: 211	• 自動生成された TLS 証明書によってブローカーの起動が妨害される問題を修正しました。

2020.2-9508 — 2020 年 11 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 78 • エージェント: 183	• Amazon DCV セッションマネージャーの初回リリース。

ドキュメント履歴

次の表は、Amazon DCV セッションマネージャーの今回のリリースの内容をまとめたものです。

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2024.0-531	Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV 2024.0-531 用に更新されました。詳細については、「???」を参照してください。	2025 年 6 月 17 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-504	Amazon DCV セッションマネージャーが Amazon DCV 2024.0-504 用に更新されました。詳細については、「???」を参照してください。	2025 年 3 月 31 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-493	Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV 2024.0-493 用に更新されました。詳細については、「2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日」を参照してください。	2025年 1 月 15 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-457	Amazon DCV 2024.0-457 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日」を参照してください。	2024 年 9 月 30 日
Amazon DCV バージョン 2023.1-17652	Amazon DCV 2023.1-17652 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日」を参照してください。	2024 年 8 月 1 日
Amazon DCV バージョン 2023.1-16388	Amazon DCV 2023.1-16388 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日」を参照してください。	2024 年 6 月 26 日
Amazon DCV バー	Amazon DCV 2023.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新さ	2023 年 11 月 9 日

変更	説明	日付
ジョン 2023.1	れました。詳細については、「2023.1 — 2023 年 11 月 9 日」を参照してください。	
Amazon DCV バージョン 2023.0	Amazon DCV 2023.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日」を参照してください。	2023 年 3 月 28 日
Amazon DCV バージョン 2022.2	Amazon DCV 2022.2 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日」を参照してください。	2022 年 11 月 11 日
Amazon DCV バージョン 2022.1	Amazon DCV 2022.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日」を参照してください。	2022 年 1 月 29 日
Amazon DCV バージョン 2022.0	Amazon DCV 2022.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日」を参照してください。	2022 年 2 月 23 日
Amazon DCV バージョン 2021.3	Amazon DCV 2021.3 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日」を参照してください。	2021 年 12 月 20 日

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2021.2	Amazon DCV 2021.2 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日」を参照してください。	2021 年 9 月 1 日
Amazon DCV バージョン 2021.1	Amazon DCV 2021.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日」を参照してください。	2021 年 5 月 31 日
Amazon DCV バージョン 2021.0	Amazon DCV 2021.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日」を参照してください。	2021 年 4 月 12 日
Amazon DCV セッションマネージャーの初回リリース。	このコンテンツの初版です。	2020 年 11 月 11 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。